



令和3年(2021年)10月26日発行

第83号

発行 一般社団法人 西宮市手をつなぐ育成会

〒663-8241 西宮市津門大塚町1-47

TEL 0798(33)7713

FAX 0798(33)7743



総会

日時：5月26日(水)10:30～11:00
場所：育成会事務所



例年フレンテホールで開催している定時総会ですが、新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない中、今年度も規模を縮小し育成会事務所及びオンラインの併用で開催しました。

会員の皆様から今まで、上限を40万円として徴収してまいりました協力金の廃止について、この度ご承認をいただきましたことは、若い方たちの負担を減らし、次の世代にバトンを引き継いでいくための大きな決断となりました。皆様への感謝と共に、責任の重さを感じております。

制度が整ってきたとは言え、親なき後の不安は尽きません。今後も障害のある本人と家族の思いを行政や関係機関等に届けていけるよう、先輩方がこれまで築き上げてくださった繋がりを大切に活動してまいります。

会長 本田 洋子



コロナ禍の下 活動はオンラインで

成人部セミナー



はじめてオンラインで

3月3日、成人部セミナーで、SIN法律労務事務所の弁護士福島健太氏に「信託の基本の知識と利用すべき事業～」というテーマでお話しいただきました。

参加人数 現地15名 zoom16名



無料相談会

福島健太弁護士による会員向け無料相談会を毎月開催しています。

成人部セミナー

【日時】2021年10月4日(月)10:30～12:00

【場所】育成会事務所(ハイブリッド開催)

【講師】SIN法律労務事務所

弁護士 福島健太氏

【テーマ】成年後見制度について

松浦さんを偲んで

松浦さんと育成会



1979年から1997年までの18年間の長きに渡り会長を務められました松浦万里子さんが2020年12月1日にご逝去されました。第6代会長として会の先頭に立って数々の事業を立ち上げ、多くの功績を残され、その思いは今の育成会活動に引き継がれています。

年表や当時の写真、松浦さんが残されたお言葉と共に改めて松浦さんの功績を振り返ります。

1人の親の力ではかばいきれない、果たすことのできない子ども達の将来を皆で心を合わせ切り開いていきましょう。

「手に手を第29号」より

「自主」とは一人で生きることではなく、障害が重くても軽くても能力に応じて生きられる環境の中で精一杯生きて行くことだと思います。

「手に手を第31号」より



写真① 十日戎募金活動(1971～1994)

写真② 1999 厚生大臣表彰を祝う会にて



年齢によって思い悩む問題はその時々に異なりますが、子どもの幸せを願う心は何時の時代にも変わりなく続いている。社団法人設立 & 結成40周年特集号

「感謝をこめて」より

福祉施策の貧困であった時代、会員は一人一人が「何とか自分で」と目的を持って会を動かしてきましたが、(中略)進路も順次できてきた現在、行動を起こさない会員が増えてきたと感じます。(中略)原点に戻り認識を新たにする必要がありそうです。

「手に手を第34号」より

松浦 万里子さんの足跡

- 1979年 5月 会長（第6代）松浦 万里子氏 就任
- 1980年 5月 一羊会 一羊園小寮舎開設
- 1981年 西宮市社会福祉大会にて親の会表彰される
12月 フレンドハウス（昼間一時預かり施設）市の委託を受け開設（和上町）
- 1982年 8月 にしのみや市民祭りに参加出店（以後 繼続）
12月 すずかけ共同作業所、第3作業場開設
- 1984年 6月 一羊会 すずかけ作業所開設（津門大塚町）
7月 フレンドハウス 和上町より津門大塚町へ移転
- 1985年 4月 すずかけ宿泊訓練スタート（[1985年総合福祉センター開設、いずみ園開園](#)）
- 1987年 4月 親の会法外施設資金制度発足
7月 一羊会 すずかけ労働センター開設（愛宕山）
10月 親の会宿泊訓練ホーム開始
- 11月 一羊会 生活ホーム開設（甲子園口）（[1988年名神あけぼの園移転開園](#)）
- 1989年 4月 一羊会 すずかけ第2作業所開設（上甲子園）
同敷地内 すずかけ労働センター移転
5月 一羊会 グループホーム開設（津門大塚町）
- 1990年 一羊会 生活ホーム（女子）開設（青木町）
- 1991年 10月 近畿精神薄弱者福祉大会 西宮市で開催
- 1992年 4月 親の会宿泊訓練ホーム、すずかけ宿泊訓練ホーム合併運営
5月 一羊会 グループホームと生活ホームを統合
すずかけ生活センター発足（中山町）
- 1993年 4月 一羊会 すずかけ作業所松並町分場開設（1997年閉鎖）
- 1994年 2月 西宮市手つなぐ親の会30周年記念式典
4月 宿泊訓練ホーム、すずかけ生活センターを合併しフレンドハウスを含め
「親の会生活支援センター」となる
4月 一羊会 すずかけ第3作業所（第1次）開設（浜町）（1997年まで）（[1995年阪神大震災](#)）
- 1996年 4月 親の会生活支援センタ一分離後、フレンドハウス、宿泊訓練は親の会運営
グループホーム、生活ホームは、一羊会運営となる
4月 「親の会緊急一時預かり事業」開始
9月 一羊会 すずかけ第2作業所移転（西宮浜）
- 1997年 2月 宿泊訓練ホーム、緊急一時預かり、フレンドハウスを合わせて
名称を親の会生活支援事業「げんきぼし」とする
1997年 4月 一羊会 「西宮市立 武庫川すずかけ作業所」受託運営（武庫川町）
- 1997年 5月 会長（第7代）岡崎 陽子氏 就任

松浦さんを偲んで



寄せられた追悼の辞

松浦さん、ご機嫌いかがでつか？

社会福祉法人一羊会 理事長 三浦 昇

学生時代に知的障害の人と出会い、親の会と出会い、親の会運営の「すずかけ共同作業所」に入職してから杉本さん、松浦さんをはじめ親の会の人たちとの付き合いが深まりました。一羊園開設直後の翌年、重い知的障害者の通える作業所作りの想いが今日の「すずかけ」の原点です。当時の作業所は運営が苦しい中にはあっても、松浦流に言うと「ぼろは着てても心は錦」、希望をもって、心豊かに、運動体として、卒業してくるみんなの通える作業所作りを進め、その熱意に行政、企業、ボランティアが応えてくれ取り組みを広げることができたと語っています。

作業所作りと並行して生活支援への取り組みを次々と問題意識を持って、まさに「福祉は創るもの」の視点で取り組んでおられたのが印象的です。

松浦さんとは公私とも親しくさせていただいて、親と職員という関係を超えて、共に福祉を語り合い実践する良き師であり同志だったと思っています。

今の育成会とその温度を大切にして付き合っていきたいと思っているので、松浦さん同様普段着の付き合いをお願いします。

母であり、18年会長として親の会運動に力を注がれた松浦さん、今も天国から想いを込めて観てはるでしょうね。

追悼：感謝

すずかけ労働センター 唐沢 文子

松浦万里子会長の訃報は、突然な事で大変驚きました。

いつまでもお元気で過ごしておられると思っておりましたので・・・

私が松浦会長と活動していたのは退任される迄の6年間でした。

今でも鮮明に思い出すのは、いつどの様な時でも、障がい者児・親の立場で現状や気持ちを適切な言葉で何方に対しても明確にお話される姿です。

今のように、社会資源が豊富でない時代でしたが、子ども達の将来を考え今出来ることを構築し、それに向かって情熱を傾けておられました。そのような中から「フレンドハウス」(昼間一時預かり)、子ども達の自立を促す「宿泊訓練ホーム」等の開設をされました。

個人では叶えることが難しくとも、お互いが協力することで実現していく「共助」の大切さを、いつも話されていました。

少しでも現状が善くなる様に一日一步前進する努力の大切さを教えて頂いた様に思います。

ありがとうございました。 やすらかに！！

松浦万里子さんへ

武庫川すずかけ作業所 上ノ山 美津子

いつもファッショナブルな出で立ちの松浦さんに役員会等でお会いするのが楽しみでした。でも今、それ以上に思い出されるのは、親の会の保護者代表として、凛とした態度で行政にも立ち向かって対処していた姿です。

大人しい親たちに「弱い立場の子供の代弁者として意見を言わないと駄目。人任せにしては前に進めないよ。」とよくおっしゃっていましたね。

ご縁あって武庫川すずかけ作業所保護者会メンバーとして訓練ホーム設立等にも一緒にがんばりましたね。

武庫川すずかけ作業所開設時の名称案に「すずかけ」の名はありませんでした。みんなの熱い思いと努力で作り上げた「すずかけ」の名をこの作業所に冠せられたのは松浦さん等の熱くて強い要望のおかげだと思っています。

常々、親亡き後もご自分の家庭は大丈夫とおっしゃっていた松浦さん。ご家族のことは安心していらっしゃるでしょうが、コロナ禍で大変な時期の私たちには「もう一踏ん張りよ！」と叱咤激励の声をかけて下さっているのでは。そんな声が聞こえそうです。

ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

松浦万里子さんを偲んで

武庫川すずかけ作業所 豆柄 幸子

私の愛しい息子が仮死で生まれた年に、松浦さんが「西宮市手をつなぐ親の会」(現「西宮市手をつなぐ育成会」)の第6代会長に就任されました。

「正常には育たない。」との医師の言葉に「一緒に死のう。」と眠れない日々を過ごしていた頃、松浦さんは、障がいを持った子ども達が普通に「教育を受ける場」「働く場」「生活の場」が得られるように、「親の会」の先頭に立って運動を進めて下さっていたのです。

各小中学校に「障害児学級」(現「特別支援学級」)が次から次へと併設されました。我が子も地域の小学校に。中学校は、何度も教育委員会に足を運びましたが、1人では開設できないと隣の校区の中学校に通うことになりました。(2年後に地域の中学校にも出来ました。)

養護学校(現「特別支援学校」)卒業後は、松浦さんの会長在職最後の年に開設された「武庫川すずかけ作業所」に進路が決まりました。松浦さんや保護者会の親たちの働きかけで、武庫すずにレスパイントのための訓練ホームが出来、息子も利用させていただきました。スムーズにホームへと移行できたのもこの経験が生かされたと感謝しています。

松浦さんが「親の会」の18年に及ぶ会長在職中に、すずかけグループ作業所はじめ、いずみ園、名神あけぼの園、フレンドハウス、グループホーム等、障がいを持つ子らの「教育を受ける場」「働く場」「生活の場」が飛躍的に広がりました。

また、私が保護者会会長になった2009年度、2010年度には、もう80歳代になられていたにもかかわらずよく保護者会に参加して下さいました。「親は子どもの幸せのため代弁者にならないとだめ。」と熱のこもった説得力のある言葉で発言して下さいました。独自で一ヶ月に要望書を出すなど、保護者会活動に活気が出ました。その頃のランプフェスティバルでは出店の2~3件を保護者会が担当していました。(現在は地域の方々が主体)その準備にも来て下さり、おでんやカレーの下ごしらえ、店の看板作成をご一緒にしました。1人1人の仕事ぶりを褒めて下さいました。嬉しい楽しい思い出です。

親子共々大きなご恩を頂きました。ありがとうございました。「遠い空から私達のかわいい子ども達を見守っていて下さる。」ことを信じてもうひと頑張ります。

エコバッグ作りました



余暇活動

2021年3月14日(日) 西宮市総合福祉センター
行永亜矢先生をお迎えして「エコバッグに絵を描こう」を開催しました。

第8回はばたくアート展

例年のように大きな会場にたくさんの人が集まることができないので、今年度は規模を縮小して2ヶ所でどちらも1ヶ月間開催します。



PART 1 2021年10月2日(土)～29日(金) 開催中

ストリートギャラリー(札場筋沿いの
三井住友銀行と三菱UFJ銀行のショーウィンドウ)

PART 2 2022年3月1日(火)～30日(水)

ららストリート(ららぽーと甲子園1F ユニクロ横通路)

余暇活動で作成した作品を中心に展示する予定です。

2020年度 ご寄付(敬称略・順不同) 2021年3月末現在

田中ふみゑ 長田 悅子

2020年度賛助会員(敬称略・順不同) 2021年3月末現在

大前 繁雄	永峰 千鶴	平見 有美	中村 喜弘	税理士法人 丸岡&パートナーズ
北川 泰寿	酒井 幸子	谷口 雄大	仲塚 千夏	西井 明子
久米利津子	吉見 京樹	大川 裕紀	中田 祥貴	西前 珠美
青山 恵里	栗原 裕実	片山みどり	藤原 彩	塩谷 健介
村内 光一	堀江 史子	岡 克明	黒木 嘉克	齊藤 幸江
古川 勝	谷田 松子	島本 美香	玉村 悠南	大西 勝代
平井 陽子	四方 勝	佐藤 寿美	福原 隆裕	山本 輝
牧原 寛之	松枝 千尋	中村 行宏	今井 広宣	森 知子
三浦 昇	岡 伸光	三木さおり	増田 亜仁	その他1名
秋山 健一	久保 廣高	岡田 朱加	山口 有香	

ご贊助のお願い

当会は、知的障害児・者がその人らしく生きていくための一助になることを願って、様々な活動を行っています。ぜひ、賛助会員としてご支援くださいますようお願い申し上げます。また、ご協力していただけの方があられましたらご紹介下さい。

※賛助会員の方には当会主催のオープンセミナーに無料で参加いただけます。

※皆様からの賛助会費は啓発事業の一部に充てさせて頂いてあります。

- ・年会費 : 1□ 2,000円 □ 口座番号: 00940-9-19101 (ゆうちょ)
- ・口座名義: 一般社団法人 西宮市手をつなぐ育成会

編集後記

コロナ禍の下、会合は次々とオンラインになり、根っからのアナログ人間も急速なデジタル化に何とかついていくとアタフタ。そのようなおり長年育成会活動に尽力された松浦さんの訃報が届きました。ひとつの時代が終わり時代が変化していく音が聞こえる気がしました。

偉大な先達のご冥福をお祈りいたします。

